

No	意見書の要旨	市の回答
<p><b>1</b></p> <p>意見1 グリーンインフラ：古くて新しいまちづくり活動事例 ⇒官民協働による環境再生及び地方創生に向けた取り組みや愛護会の取り組み等の実績紹介 その1) グランドワーク三島の活動事例 その2) 2級河川和泉川の整備事業事例 その3) 緑の10大拠点「川井・矢指・上瀬谷」の市民の森愛護会の活動事例 その4) 旧上瀬谷通信施設の湧水を水源とする和泉川流域（宮沢地区）の活動事例 その5) ミツバチと共生する生活環境創造の活動事例</p> <p>意見2 旧上瀬谷通信施設土地利用に関わる提案 ⇒対象地域を返還跡地に限定するのではなく、計画地の南東側に連続して広がる緑の10大拠点「川井・矢指・上瀬谷」約700haの広大な空間を生かしてミツバチが好む蜜源・花粉源植物を増やす森林として活用することを検討していただきたい。 その1) 緑の10大拠点「川井・矢指・上瀬谷」700haを抱合した取り組み（蜜源森林） その2) 週末養蜂ができる地域づくりを目指そう その3) 計画地南東側の遊水池周辺を活かした広場づくり ①ほたるの生息ゾーン、②カブト虫の生息ゾーン、③養蜂箱設置ゾーン、④交流広場</p> <p>意見3 横浜西の玄関口のシンボルゾーンの解説 ⇒瀬谷八福神めぐり南側ルート最後の環状四号線沿いにある全通院勢至堂に隣接した高台農業耕作地への霊峰富士観察展望台の設置</p>	<p>近年の急速な少子高齢化の進展や市民の暮らしにおけるニーズの多様化に対応し、魅力的な地域のまちづくりを進めていくためには、行政の取組だけではその実現は困難であり、市民や企業と行政が各々の役割を分担しながら、協働してまちづくりに取り組むことが、重要であると考えております。</p> <p>計画地は、横浜市内でも有数のまとまった農地が広がっており、南東側には瀬谷市民の森、上川井市民の森、追分市民の森、矢指市民の森が連続しており、豊かな緑が広がっています。</p> <p>2020年3月に策定した旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画においては、「活力ある都市農業と緑をいかした魅力あるまち」をまちづくりの方針の一つとして掲げており、計画地の特性やポテンシャルを最大限に生かした土地利用・基盤整備を行うため、豊かな自然環境をいかした土地利用の検討を進めるとともに、地区全体で多様な機能を持つグリーンインフラを活用することや、持続可能な都市農業を推進していくため、農業生産基盤の整備を図ることを基本的な考え方として定めております。</p> <p>今後、土地利用について詳細に検討してまいります。市民の皆様と連携したまちづくりに関する数々の取組事例や、貴重なご意見をいただきましたので、関係部署と共有したうえで、今後の取り組みの参考とさせていただきます。</p>	

<p>2 旧上瀬谷通信施設跡地とその周辺で多種類の猛禽類が確認されており、絶滅危惧種等の繁殖行動も見られました。その他にも、多種類の野鳥や哺乳類も生息しています。昆虫も多種多生息しているほか、多種の樹木や野草が群生しています。</p> <p>○全体的な観点について</p> <p>跡地利用アンケートで第1位になった「緑を享受する首都圏郊外の自然レクリエーション空間」に忠実に進めてください。「観光・賑わいゾーン」にしても、「公園・防災ゾーン」にしても「緑」から離れないようにしてください。全体的なイメージとしては緑区の方にある「こどもの国」のような自然と調和した形にして、現存する木、植え込み、草地を破壊せず生かした形にしてください。NHK で放映された茅ヶ崎市の湘南カントリークラブでとられている生き物と共生するための「高刈り」などをとりいれ、野生生物との共存をはかってください。人工建造物や電線は猛禽類の狩の妨げになるばかりでなく高速飛行中の衝突につながるため跡地内北側の八王子街道沿いに集約し電線は地下を通してください。</p> <p>○テーマパークについて</p> <p>「テーマパーク」は多種類の猛禽類に甚大な影響を及ぼすと考えます。獲物が減ってしまうことはもちろん、高速飛行で狩をする猛禽には広大なスペースが必要であり、その他の猛禽類にとっても、建造物や人工物、電線が狩の障害物となります。高速飛行中、電線で翼を切断してしまう例もあります。人間にとっても台風の影響が考えられます。また、今まで静かだった土地が大音量の放送や大量の人が押し寄せるとなると、猛禽類を含む野生生物が棲めなくなります。小学校も近くにあり、地域住民からの苦情も十分予想されます。夜行性の猛禽類等の生物にとっては、きらびやかな照明が障害となります。</p> <p>どうしてもテーマパークをつくるなら、日本に興味をもつ外国人の中には、日本の里山、原風景に魅力を感じている人が多いので、外国人観光客に来てもらえるような里山をテーマにしてはどうかと考えます。当初の「緑を享受する首都圏郊外の自然レクリエーション空間」に矛盾しない形でもあり、野生生物と共存する形にしてほしいと思います。園内は、野生の四季の花々が広大な面積に咲き乱れ、実のなる木を意識的に植え、相沢川を利用した底の浅い安全な川遊びができるような環境をつくるか、水を引いて池をつくるなど人にとっても生き物にとっても良い姿にしてください。今は減ってしまった水田も園内につくり、大学と連携して無農薬や作業ロボットを試みたり、5月頃はレンゲ草の花が一面に咲く里山によく見られる風景を再現してほしいように思います。ここでも、基本的に「こどもの国」のような自然と調和した形にし、茅ヶ崎市の湘南カントリークラブの自然と共生する試みを参考にしてほしいと思います。</p> <p>テーマパークの外壁下部にはキジやイタチなど野生生物が通れるように多数の抜け穴を設け、外壁の内外には植樹をして東側の公園等の緑地と西側の農地（生産緑地）に生物が安心して行き来できるようにしてください。巨大なテーマパークが中央にあることで、東の緑地と西の生産緑地を利用している野生生物が分断されてしまうようなことのないよう共存をはかってください。</p> <p>○米軍広場について</p> <p>米軍広場と周辺の緑地はそのまま残してください。米軍広場は地域の人々が活用してきた思い出の場所です。ほとんどが国有地でもあり、だれもが無料で使えるようテーマパークの中に取り込まないでください。また、キジや現在絶滅危惧種のヒバリ、多種類の猛禽類もよく利用している場所でもあります。生物にとって東の緑地と西の生産緑地をつなぐ大切な役割をはたしている場所でもあるので、「共生」の意味においても広場と周辺の草地、芝生、木々などは今のまま残し、東側の公園・防災ゾーンと西の農業振興ゾーンの緑がつながる形にしてください。そのためには、物流ゾーンは環状4号線西側の農業振興ゾーンの八王子街道沿いに移し、観光・賑わいゾーンを北にスライドさせ、八王子街道と接する形にして米軍広場と周辺の緑地を残し、東側の公園・防災ゾーンと西の農業振興ゾーンの緑をつなげてください。その際、4号線をはさんで西側の農業振興ゾーン中に突き出した観光・賑わいゾーンがありますが、そこは多種類の生物が利用しているのでそのまま残してください。そして、農業振興ゾーンの面積を補うため、米軍広場周辺の現在ある農地を活用すれば、生物にとっても良いと思います。</p>	<p>旧上瀬谷通信施設は、面積約242haと、首都圏でも貴重な広大な土地です。また、東名高速道路の横浜町田インターチェンジや保土ヶ谷バイパス上川井インターチェンジに近接し、計画地内を南北に環状4号線、計画地北川に八王子街道が通り、広域での自動車交通の利便性の高い地区です。</p> <p>さらには、横浜市内でも有数のまとまった農地が広がるとともに、計画地の南東には、市民の森が連続しており、豊かな緑が広がるなど、今後の横浜市における魅力あるまちづくりを推進していく中で、非常に高いポテンシャルを秘めた土地です。</p> <p>横浜市の上位計画や都市計画マスタープランにおいても、緑や農の保全とバランス等を図りながら、周辺地域の活力に結びつくよう土地利用を誘導していくこととしています。</p> <p>これらを踏まえ、米軍からの返還以降、地元地権者の皆様によるまちづくり協議会とともに、当該地区における今後のまちづくりについて慎重に議論を重ね、2020年3月に旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画を策定し、市民の皆様にお示ししたところです。</p> <p>その概要についてですが、豊かな自然環境をいかした「郊外部の新たな活性化拠点の形成～みらいまで広げるヒト・モノ・コトの行き交うまち～」をまちづくりのテーマに、3つの方針を位置付けました。</p> <p>具体的な方針の内容としては、一つ目の方針「多様な交流による、賑わいと活気のあるまち」では、計画地のポテンシャルを最大限にいかし、集客機能の導入により、交流人口の増加や経済活性化につなげるとともに、都市的土地利用と連携した都市農業を展開し、賑わいと活気あるまちをめざしていきます。</p> <p>二つ目の方針の「活力ある都市農業と緑をいかした魅力あるまち」では、まとまりのある農地を保全し、賑わいと食・農業の連携による新たな都市農業を世界に発信するとともに、今ある自然環境をいかしながら、グリーンインフラを活用し、緑をいかした魅力あるまちをめざしていきます。</p> <p>三つ目の方針の「将来にわたり、安全安心で、利便性の高いまち」では、交通利便性をさらに高めるまちづくり、広域的な課題の解決に取り組み、将来にわたり安全安心で利便性の高いまちをめざしていきます。</p> <p>これらを踏まえ地区内の土地利用については、4つのゾーン（農業振興ゾーン、観光・賑わいゾーン、物流ゾーン、公園・防災ゾーン）に整理し、各ゾーン間の連携を促進できる事業手法や区域を検討していきます。</p> <p>今後、土地利用について詳細に検討してまいります。事業の進捗に応じて、説明会を行うなど、市民の皆様へ情報提供するとともに、ご意見を伺いながらまちづくりを進めていきます。</p> <p>今回、いただきました貴重なご意見に関しましては、関係部署と共有し、今後、土地利用の検討を深度化していく際の参考とさせていただきます。</p>
---	--

○観光・賑わいゾーンについて

市民意見募集の冊子中にある「まちづくりのコンセプト」にも「今ある緑や農地を保全しつつ、ここでしかできない新たなコトやモノを創出する」とあり、「土地利用の内容」の「農業振興ゾーン」の中には「賑わい施設などと連携」とか「大学と連携した農業技術の研究」と書いてあります。農作業にロボットをとりいれるとか現地で減ってしまった水田をつくり 無農薬を試みたり、 5月頃はレンゲ草の花が一面に咲く里山によく見られる風景を再現してほしいように思います。ゾーン内につくった水田、小川、池に水生昆虫、タニシ、サワガニ、メダカ、クサガメなど、かつて里山にいた生物を復活させ、こどもからお年寄りまで無料で親しんでほしいように思います。

○農業振興ゾーン

環状4号線をはさんで西側の農業振興ゾーン中に突き出るようにして観光・賑わいゾーンがありますが、そこは猛禽類やその他の野鳥、イタチなども利用しているのを見かけます。川がある場所でもあり、生物との共存のため農業振興ゾーンとしてそのまま残してください。

○公園・防災ゾーンについて

公園・防災ゾーンの中は全面グラウンドのような砂地にするのではなく、子供がバッタなどの昆虫とふれあったりキジ・ヒバリなどの野鳥が生息できるような現在の自然な草地の形にしてください。

花博時の人工物・建造物は撤去し猛禽類などが自由に飛べるようにしてください。

瀬谷市民の森近くの公園・防災ゾーン中にある大きな山桜の木とその根本一帯に群生する菜の花や周辺の草地は地域の人やハイキングの人が写真を撮ったりして親しんでいます。

野生生物にとっても貴重な棲家で、多種類の猛禽類の狩が見られ、多種類の鳥類も見られました。人工物、建造物などはつくり、現在のまま残してください。

防災を理由とした巨大建造物をつくり、地下を利用するか、現在ある米軍の建物を利用するなりしてください。どうしても人工物や建造物をつくる場合は、八王子街道沿いに集約し、野生生物に影響のないようにしてください。

公園・防災ゾーンを西に伸ばし、農業振興ゾーンと緑がつながる形にしてください。

○地区内道路について

観光・賑わいゾーンの東西にはしる南側から2本目の地区内道路と観光・賑わいゾーンの南北にはしる八王子街道から公園・防災ゾーンにいたる地区内道路は、歩道とするか、車道にするなら地下を通してください。どちらの道も猛禽類、キジなどの鳥類、哺乳類との追突事故が考えられます。夜間においても夜行性の猛禽、哺乳類などとの事故が心配されます。

○鉄道について

駅からの移動手段として鉄道を考えているようですが、毎年花見の人々が実際に広場まで歩いています。高齢者が鉄道の駅で降り、さらに目的地まで歩くのはたいへんなので、観光地によくあるような三輪車の自転車タクシーを廉価に走らせていただければ、目的地まで歩くことなく乗って行けるし、自然にも影響がないと思います。

モノレールは高さのあるものなので、猛禽類の飛行の障害物となります。猛禽類が低空で飛行し環状4号線を横切り、付近の林へ入る場面を何度も見ました。共存のため、モノレールはやめてください。

鉄道は敷設するなら地下を通すか、どうしても地上を通すなら、江ノ電のようにこじんまりしたものにして、駅も小さくし自然への影響のない形にしてください。電車のための送電線も地下を通し猛禽類の飛行の障害とならないようにしてください。台風の影響も心配されます。

LRT(次世代型路面電車)が江ノ電のようなこじんまりしたものなのかよくわからないので、市民向けに絵なども入れ、具体的な電車の大きさ、駅の位置や大きさ、行き帰りとも同じホームの反対側なのかなど説明してほしいです。

○電線について

現在、無電線化が進められているということをタウンニュースかなにかで読みました。観光という意味においても、猛禽類の飛行の障害物になるという共存という意味においても、今後の台風対策という意味でも旧上瀬谷通信施設

とその周辺での無電線化を進めてください。

○その他

本来は「何ゾーン」と言う形で線引きするのではなく、この地区全体を一つの自然保護区のようにして、どこにでも緑があり、どこにでも田畑があり、どこにでも野生生物が生息し、どこにでも農作業の人などがいるというような里山の風景をそのままに残してほしかったように思います。そこに、「上瀬谷自然保護地区」とか「上瀬谷自然共存地区」とか、なにか名をつけて、「人間も生物もここでは皆いっしょに生きています」というようなピーアールをして外国の人も含めて来てもらい、その人たちが駅の周辺で弁当などのお金をおとしていってくれるというようなことでよかったように思います。訪問者は一挙に大勢は来なくても毎年少しづつ来てくれ、それがずっとつづくというようなあり方がふさわしいと思います。「こどもの国」がそれに近いものと思います。その地区の中の一部の農地では大学等と連携した無農薬などの先進的な取組みをしているとかいうことでよかったと思います。それが「収益」ということを考え、お金を払わないとその中に入れないテーマパークにしてしまい、大量の人が押し寄せるようなことは、地域の人々の気持ちを無視し、ここに生息している貴重な多種類の生物を追いやるようなことだと思います。ゾーン全体を見ても、公園や農地を東西に押しやり、結局テーマパークを造りたいのではないかというように見えます。「テーマパーク」は市長案と聞きました。この地区には生態系とか、貴重な生物とか、人々の思い出のある広大な自然の風景とか、お金では買えない大切なものがあります。「テーマパーク」は一挙にたくさんの金が入るかもしれませんが、それが長続きするとはかぎりません。また、造るときの大金が必要で、維持するための金が出ていくこととなります。「自然保護地区」の方が長い目で見て得なのではないかと考えます。以上

<p>3 瀬谷区では救急病院が少なく、救急車で運ばれると、必ず区外に運ばれる。救急病院が欲しいというのが区民の願いです。</p> <p>堀、相原病院があるからベッド数は足りているというのはおかしいです。医療福祉のサポートが必要で瀬谷区は貧困化率、高齢化率が高いという地域の課題をどう解決するのがこの構想からはわかりません。</p> <p>突然のテーマパーク構想で、大気汚染、交通渋滞を心配する声が地元から多くあがっています。瀬谷区内小学生男子のぜん息り患率はトップクラスです。</p> <p>テーマパークにこだわらず、自然を守り、平成6年の提言に立ち戻ってください。そして地権者の意見ばかり聞かず、幅広い区民の声をもっと聞いて、計画段階での意見募集をこれからも続けて、反映させて下さい。</p>	<p>旧上瀬谷通信施設は、面積約242haと、首都圏でも貴重な広大な土地です。また、東名高速道路の横浜町田インターチェンジや保土ヶ谷バイパス上川井インターチェンジに近接し、計画地内を南北に環状4号線、計画地北側に八王子街道が通り、広域での自動車交通の利便性の高い地区です。</p> <p>さらには、横浜市内でも有数のまとまった農地が広がるとともに、計画地の南東には、市民の森が連続しており、豊かな緑が広がるなど、今後の横浜市における魅力あるまちづくりを推進していく中で、非常に高いポテンシャルを秘めた土地です。</p> <p>横浜市の上位計画や都市計画マスタープランにおいても、緑や農の保全とバランス等を図りながら、周辺地域の活力に結びつくよう土地利用を誘導していくこととしています。</p> <p>これらを踏まえ、米軍からの返還以降、地元地権者の皆様によるまちづくり協議会とともに、当該地区における今後のまちづくりについて慎重に議論を重ね、2020年3月に旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画を策定し、市民の皆様にお示ししたところです。</p> <p>今後、土地利用について詳細に検討してまいります。事業の進捗に応じて、説明会を行うなど、市民の皆様へ情報提供するとともに、ご意見を伺いながらまちづくりを進めていきます。</p> <p>現段階では、市立・地域中核病院などの大病院を新たに整備する計画はありませんが、医療施設の立地については、周辺の整備状況や医療需要等を踏まえ、その必要性を含め検討していきます。</p>
---	---